

甲斐市議会総務教育常任委員会会議録

1. 開催日時 令和2年9月25日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（6名）

委員長	内藤久歳君	副委員長	加藤敬徳君
	清水和弘君		赤澤厚君
	芥藤芳夫君		有泉庸一郎君

欠席委員（1名）

小浦宗光君

傍聴議員（1名）

議長 清水正二君

説明のため出席した者の職氏名

教育部長	山田洋君	学校教育課長	輿石信君
生涯学習文化課長	大畷正之君	教育指導係長	小野貴博君
生涯学習係長	小田切治君		

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	土屋達巳	書記	森田公
書記	中込美智子		

内容

- 1 令和3年（令和2年度）成人式式典会場等の変更について（生涯学習文化課）
- 2 学力向上支援スタッフ及びスクール・サポート・スタッフの配置状況について（学

校教育課)

3 その他

開会 午前10時58分

○書記（森田 公君） ご参集、大変お疲れさまです。

それでは、ただいまから総務教育常任委員会を開会いたします。

本日の委員会は、初めに委員長よりご挨拶をいただきまして、委員長の進行により進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、委員長挨拶、内藤委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） 皆さん、改めまして、こんにちは。

大分朝晩涼しくなって、秋の気配を感じさせる今日この頃ですけれども、市制施行以来、初めての市長選挙が行われたということでございます。議員各位におかれましては、それぞれの立場で取り組んでいただいたことと思います。大変ご苦勞さまでございました。

そんな中、今日の新聞にも一部論調として載っていましたが、投票率が47.01%と非常に低いというふうなこと、それから、保坂市政12年間の検証等もしていく必要があるんじゃないかなということ、それから、投票率の低さに関しましては、我々の市議会を含め、非常に50%を切っているというふうな状況の中で、市民の関心の低さ、意識の低さというものが、こういった結果に表れているのかなというふうに思っております。

その点に関しましては、我々もしっかり取り組む中で、もう少し市民に対して、行政のほうに目を向けていただくと、そういう中で自分の意思を表すというふうなことにつながるような活動もしていかなければならないかなということを思ったところでございます。それと同時に、10月から新しい4期目の保坂市政が執行されていくわけですが、それについても、我々もしっかりと市民の声に耳を傾けながら、議会運営をやっていくことが必要ではないかなというふうなことも感じたところでございます。

保坂市政が10月から始まります。それに向けて、さらに議会もしっかりと監視をしていくというふうな心構えで取り組んでいければいいかなというふうに思ったところです。

今日は、案件が2件ということでございますが、委員各位のご協力をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名です。定足数に達しておりますので、これより総務教育常任委員会を開会します。

なお、小浦委員は欠席の連絡がありましたので、報告します。

本日の会議を開きます。

なお、本日は委員外議員の傍聴を許可しますので、ご承知おきください。

質疑は、委員の質疑を受けた後に、傍聴議員の質疑を受けたいと思います。

○委員長（内藤久歳君） それでは、これより次第3、内容に入ります。

（1）令和3年（令和2年度）成人式式典会場等の変更について、担当より説明をお願いいたします。

大寫生涯学習文化課長。

○生涯学習文化課長（大寫正之君） よろしく願いをいたします。

生涯学習文化課より、令和3年（令和2年度）成人式式典会場等の変更について、ご報告をさせていただきます。

常任委員会資料1ページ、2ページとなります。お願いをいたします。

例年、甲斐市の成人式は、アピオ甲府・吉兆の間におきまして、成人の前日の日曜日に開催をしてきましたが、現在アピオでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため策定されましたガイドラインに基づき、運営を行っております。

このガイドラインでは、例年式典会場としておりました吉兆の間の利用人数の上限が241名と決められたため、出席者全てを収容することができない状況でございます。また、現時点で感染の終息が見込まれないことから、今回、会場や内容を変更して開催を予定しております。

内容につきまして、1ページの中盤から下になります。

（1）開催日は、成人の前日の令和3年1月10日日曜日でございます。これにつきましては、例年と同じでございます。

（2）開式ですが、開式時間は午後3時、受付は午後1時からとなります。例年ですと、前日に準備を行い、当日午前10時から開式となりますが、会場等の都合によりまして午後の開催となります。

（3）会場につきましては、YCC県民文化ホール・大ホールとなります。YCC県民文化ホールにつきましても、現在、ガイドラインを策定いたしまして、運営を行っておりますが、大ホールはガイドライン制限が1,000名ということでございます。

(4) 新成人の人数につきましては、7月17日現在、858名でございます。

(5) 実績ですが、令和2年、今年の新成人対象者数は800名で、出席者は645名でございます。出席率は80.6%になります。

(6) 式典次第及び(7)の出席者につきましては、2ページをお開きください。

上段が式次第となります。上段左側が今年1月の次第、右側が令和3年、来年の次第となります。

今回変更をする箇所のみ説明をさせていただきます。

2の国歌斉唱につきましては、文化ホールのガイドラインによりまして、斉唱はせず、演奏のみとなります。

4の新成人への記念品贈呈は、省略をさせていただきます。

5の議長によるお祝いの言葉につきましては、会場への掲示とさせていただきます。

8のアトラクションにつきましては、新成人で組織される実行委員会におきまして、現在、実施の可否の検討を行っております。実施する場合におきましても、時間を例年の半分以下の5分から10分以内に短縮し、実施することとなります。

式典の時間は、例年およそ1時間を要しておりますが、令和3年成人式は、半分の30分程度を予定をしております。

続きまして、2ページ下段の主催者・来賓者につきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策といたしまして、人数を大幅に減らすことといたします。

主な内容につきまして、ご説明をいたします。

まず、副市長につきましては、感染対策により、市長との同時出席を回避するため、出席はいたしません。市議会の関係につきましては、ご来賓といたしまして、正副議長、所管の総務教育常任委員会の正副委員長、そして厚生環境常任委員会委員長、建設経済常任委員会委員長の計6名とさせていただきます。

また、そのほか、各中学校の恩師の先生等につきましても、今年はお呼びしないということでございます。

以上、令和3年成人式式典会場等の変更についてご報告をさせていただきました。よろしくお願いをいたします。

○委員長（内藤久歳君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで委員並びに職員各位に申し上げます。

質問は一問一答とし、また、質問、答弁は簡潔明瞭にさせていただきますようお願い申し上げます。

それでは、委員より質疑等がありましたら、お願いいたします。

何かございますか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 式典のことだけれども、ある程度簡略にということではあるんだけど、来賓が県会議員と市会議員、正副議長と各常任委員長と、結構招待しているわけだね。そこで1人ぐらいお祝いの言葉が、議長ぐらいしてもいいような気がするんだけど、その辺はどうなの。

○委員長（内藤久歳君） 大寫課長。

○生涯学習文化課長（大寫正之君） お祝いの言葉につきましても、本来ですと、いただきたいというのがやまやまなんですけれども、やはり当日、相当数の学生というか、成人者が来る、県外からも来ることが想定されますので、議長の言葉につきましては、メッセージで会場に掲示ということでさせていただきたいと思います。ご理解をいただきたいと思います。

○委員長（内藤久歳君） 赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） それは十分分かるんだけど、一節やっても二、三分だと思うんだ、基本的にね、今は。その辺はやっぱ、俺としてはやっぱ、1人だけだからね。あとは紹介はするわけでしょう、基本的に。その辺のところは、ちょっと考慮したほうがいいような気がするんだけど、再度検討してはどうなのかな。

○委員長（内藤久歳君） 山田教育部長。

○教育部長（山田 洋君） 赤澤委員のおっしゃることは重々分かるんですけど、3月、4月の卒業式、入学式においても、お祝いの言葉についてはご遠慮願うという、出席自体をご遠慮願ったという経緯もありますので、今後の状況がどんなふうになるかという部分も分からないという部分も含めまして、今回、出席はしていただくという部分で、少しは緩和したという部分もありまして、式典自体の時間を短くしたいという部分もありますので、お祝いのメッセージの掲示ということで、誠に申し訳ないんですが、お祝いの言葉については省略させていただくという形を取らせていただきたいと思いますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今の部長の言うことも分からんわけじゃない、これが入学式、卒業式なら、出席していなかった、来賓がね。今度は来賓で出席しているわけだ、基本的にね。そこが全然違うし、せつかく来賓として呼んでいるなら、多くの人にもらう必要はないけれども、やっぱり議会としての代表だから、議長に一言ぐらい挨拶の言葉は、俺は必要じゃないかと思うんだけど、そこはどうなのかな。

○委員長（内藤久歳君） 山田部長。

○教育部長（山田 洋君） 誠に申し訳ありませんけれども、ここで結論を出すということはちょっと難しい部分もありますので、今後の検討課題ということにさせていただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

ほかにございますか。

斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） 足し算が合っているのか確認したいだけなんだけれども、議長、副議長、総務、厚生2人ずつというと、8になるんじゃないかと、単純にここ、6と書いてあるのは何でかなと。

○委員（斉藤芳夫君） ああそうか、厚生と建設は委員長のみか。分かりました。

○生涯学習文化課長（大島正之君） はい。

○委員長（内藤久歳君） 代表ということで。

ほかにございますか。

有泉委員、どうぞ。

○委員（有泉庸一郎君） 参考にちょっとお聞きしたいんだけど、アピオから県民文化ホールで、費用的にはどのくらいになるんですか。

○委員長（内藤久歳君） 大島課長。

○生涯学習文化課長（大島正之君） 費用につきまして、今年の1月に行いました実績ですと、会場の借上料ということで、アピオさんにつきましては約46万5,000円ほどになります。今回変更いたします県民文化ホールにつきましては、会場の使用料ということからいきますと、約12万5,000円という形になります。

以上でございます。

それから、日数的にアピオさんの場合には、例年ですと、前日借りまして準備をして、当日午前中に開催ということになりますが、今回は前日、会場の都合で借りられないというこ

ともありまして、当日1日だけという形でございます。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 会場、今後は、コロナの関係で行くんだらうけれども、今後も文化ホールでというようなことは考えていない。今回だけですか。

○委員長（内藤久歳君） 大寫課長。

○生涯学習文化課長（大寫正之君） 今回につきましては、新型コロナウイルスの感染防止という形も含めての対策・対応になります。来年以降、平成4年以降につきましては、会場等につきましては、検討をまだしていないという状況であります。

今回、大ホール、文化ホールは初めての使用になりますので、その状況も踏まえまして、検討していきたいというふうに考えております。

○委員長（内藤久歳君） ほかにございせんか。

〔発言する者なし〕

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、委員の質疑を終了します。

傍聴議員、質疑ございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、傍聴議員の質疑を終了します。

以上で、令和3年（令和2年度）成人式式典会場等の変更についてを終わります。

次に、委員より、生涯学習文化課関係でお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、以上で生涯学習文化課関係のその他を終了します。

ここで暫時休憩し、職員の入替えを行います。

休憩 午前11時14分

再開 午前11時15分

○委員長（内藤久歳君） 会議を再開します。

続いて、内容の（２）学力向上支援スタッフ及びスクール・サポート・スタッフの配置状況について、担当より説明をお願いいたします。

興石学校教育課長。

○学校教育課長（興石 信君） お疲れさまです。よろしくお願ひいたします。

それでは、学校教育課から、学力向上支援スタッフ及びスクール・サポート・スタッフの現在の配置の状況についての報告となります。

常任委員会の資料は、3ページになります。

まず、学力向上支援スタッフ及びスクール・サポート・スタッフの概要について、口頭で説明させていただき、その後、資料に基づきまして、現在の配置状況についてご報告をさせていただきます。

初めに、学力向上支援スタッフについてですが、双葉東は3名となりますが、予算上は各校2名を計上し、1日4時間の勤務で、1人当たり週20時間を上限とした勤務となっております。業務内容は、授業に入つてつまずきがちな児童・生徒の支援を行つたり、宿題や学習プリント、作文の採点など、担任の授業に関する手助けを行うものです。

次に、スクール・サポート・スタッフについてですが、こちらは、予算上は各校1名で計上をし、1日4時間の勤務で、1人当たり週20時間を上限とした勤務となっております。業務内容は、施設の消毒作業や健康観察の補助、学習プリントの印刷等、教員の授業以外の業務の手助けを行うものです。

いずれも、任用の期間は令和3年3月まででありまして、随時面接及び任用を行っているところです。また、1人の予算で最大3人まで、実際に配置可能としております。

それでは、現在の状況につきまして、資料に基づき説明いたします。

3ページをご覧ください。

一覧表では、学力向上支援スタッフとスクール・サポート・スタッフのそれぞれにつきまして、9月23日時点の各校の状況を配置人数と勤務の上限時間数に対する充足率で示し、一番下の欄には16校全体の数値を記載しております。

16校個々に追っていきますと時間がかかりますので、ここでは割愛をさせていただき、16校全体の状況のみのご報告とさせていただきます。

最下段をご覧ください。

16校全体の状況ですが、学力向上支援スタッフは46名の配置で、勤務上限時間に対する充足率は80.0%であるのに対しまして、スクール・サポート・スタッフは14名の配置で、

勤務上限時間に対します充足率は68.8%にとどまっております。

学力向上支援スタッフに比べ、配置人数、充足率共、低い数値となっております。要因といたしましては、決して応募される方が少ないわけではありませんで、勤務の時間帯に関しまして、学校の希望と応募者の希望がなかなか一致をしないためです。

学校は、教職員が放課後に行う消毒作業の負担を軽減をする、そうした観点から午後の勤務を希望する、そうした学校が多いのに対しまして、応募される方は、子供のお迎え等、家庭の事情によりまして、午前中の勤務を希望する方が多く、その折り合いがつかない場合に配置がゼロとなっております。

せっかくの人材を生かして配置のゼロを解消するために、今後は応募者に対しまして、勤務時間についての再交渉や業務内容についての追加説明を行うとともに、未配置の学校に対しましては、既に配置・勤務をしております学校の活用状況等をお伝えする中で、消毒作業だけにとらわれないスクール・サポート・スタッフのより柔軟な幅広い運用を促してまいりたいと考えております。

また、学力向上支援スタッフにつきましても、各校の充足率が100%に近づくよう、任用を進めてまいりたいと考えております。

以上、学校教育課からです。よろしく願いいたします。

○委員長（内藤久歳君） 説明が終わりました。

これより質疑を行います。委員より質疑等がありましたら、お願いいたします。

有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 学力向上支援スタッフとスクール・サポート・スタッフの資格というか、どのような、採用する条件みたいのをもう一度教えてもらえますか。

○委員長（内藤久歳君） 興石学校教育課長。

○学校教育課長（興石 信君） 学力向上、スクール・サポート、いずれも特に教員免許等の条件は付しておりません。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 一応、なかなか人員を集めるのも大変だろうと思うんだけど、やっぱり学力向上支援スタッフというような名称であれば、やっぱりある程度の資格というか、そういう人物をやっぱり選んだほうがいいような気がするんですけども、その辺はど

うなんでしょうかね。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） 今の有泉委員の指摘どおり、本来であれば、特に学力向上は子供たちの学習に関わりますので、教員免許をきちんと資格として持っているという形が一番望ましいと、こちらも考えております。ただ、年度途中の任用で、しかも非常に任用の対象人数が多いということの中で、なかなかそれだけの人が集まらないというようなところが想定されまして、その中で、教員免許は特に条件としては付しておりませんが、任用に当たりましては、学校と市の教育委員会でそれぞれ面接をしまして、その人の人物となりとか、経歴を見極める中で任用しております。

また、実際に46名の学力向上のスタッフにつきましては、10名程度は教員免許を持っておりますので、そういった方も配置はしております。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 今、課長のほうから説明ありましたがけれども、できるだけ、そういう事情が事情ですから、やっぱりふさわしい人を面接で見極めていただければと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

ほかに。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 学力向上支援スタッフということだよ。学校によって、曜日にしても時間数も、結構、金額にかなりの差があるんだよ。これはやっぱり学校とか要望とか、そういったものによって、どういう関係でこういう差が出ているの、基本的に。ちょっと詳しく教えていただけますか。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） まず人材の探し方ですけども、2つ方法がありまして、1つは学校の校長先生、これを中心に、学校のつながりの中で探していただくという方法と、市のホームページとか、あるいは広報によって、一般の公募で受け付ける場合があります。

基本的には、こちら、任用の方針としまして、各学校で見つけていただいた人材につきましては、各校に、その学校に配置をするということが前提になります。ですので、各学校のつながりの中で、人材がたくさん見つけられた学校については、そこは自動的に配置が決ま

りますので、そこは隙間なく埋まっていく形になります。

一方、学校でなかなか探せなかった学校につきましては、ホームページとか広報により、こちらで審査した方を配置しますので、どうしてもその中で、ちょっと偏りができてしまうというか、そういった形で少し差が出ております。

いずれも、まだ面接が日に何件か入っていますので、今後は配置が少ない学校に優先的に配置をしまして、16校のバランスが取れるような任用を考えていきたいと思っております。以上です。

○委員長（内藤久歳君） 赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今、いろんな学校の事情とか、いろんな関係で、なかなか人材が多くできない学校もあるし、ホームページとかいろんな関係の中で、募集というか、そういうをしている学校もあるということで、格差が出るということで、基本的には学力向上支援スタッフとなると、本当は差があるとおかしくなるんだよね。甲斐市の中の学校において差があるということは、やっぱり子供に対して学力の、結局差が出る可能性が、100%あるとは言わないけれども、可能性があるわけだよね、基本的に。

じゃ、何のための、やっぱり甲斐市で市でやっているわけだから、そういった今課長が言ったように、学校によってそういう人数の差がないようにやっぱりしていかないと、せっかくこうやって支援スタッフという形で、市でこういった事業に取り組んでも、逆に、少ないところから親から不満が出たり、そういった懸念もされるんだけれども、できるだけこういったところは、やっぱり市のほうでも積極的に人材を掘り起こして、埋め合わせをするというか、その努力をしてもらいたいんだけど、その辺の対応はどうですか。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） 今後、そういったことも念頭に置きながら、最終的には各学校がばらつきがないように、本当に指摘のとおりだと思いますので、16校がそれぞれ学力向上支援スタッフを入れる中で、十分な学習体制ができるように努めていきたいと考えております。ありがとうございます。

○委員長（内藤久歳君） 斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） ちょっとそもそも聞きたいのは、学力向上支援スタッフとスクール・サポート・スタッフというふうに分けてある。何か基準になって、どこからか今までの、例えば学習指導要領とか、あるいは国からの指示とか、そういったので、スタッフとサポート・スタッフというふうにそもそも分けてあるというところに、何を目的にそもそも分かれ

ているのか、そここのところ辺はどうなんでしょうかね。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） まず、この学力向上支援スタッフとスクール・サポート・スタッフの事業につきましては、国のほうの事業になっております。国のほうで、両方ともコロナの状況下の中で、非常に先生たちが忙しい思いをしているということで、そのサポートをするということは共通なんです、国の事業のほうでも2つに分かれておりまして、学力向上の主に学習面のサポートをしていくと。スクール・サポートのほうは、それ以外のサポートをしていくというような形で、国の事業が分かれておりまして、それに準じる形で、本市においても2つのスタッフを設けて、ここまで任用を行ってきているということで、もともとの国の事業自体が、授業の支援の学力向上と授業以外の支援のスクール・サポートに分かれているというものが根拠となっております。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） 斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） それは、国がそういうふうにといって、種目的に分けたみたいになっていると、今、いわゆるスクール・サポート・スタッフのほうに成り手が少ないと、現実もそうになっているわけじゃん。そうすると、例えば支援スタッフなんだから、意欲を持ってどうやって立ち向かおうかというのと、いや、サポート・スタッフじゃつまんないからやらないという人とあったりすると、本当の意味での子供たちの支援になるのかならないのかという、そういうところ辺の根本的な部分が出てくるような気がするんだけど、例えば労働条件に格差があるとか、そういうことはないんですか。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） 業務の内容が違いますので、労働条件的に、まず報酬が異なっております、学力向上支援スタッフは、時給で1,037円という形で任用しています。一方、スクール・サポート・スタッフのほうは、時給が897円という形で、労働条件上は、そういう形で差をつける中で、募集、任用しているということになります。

○委員（斉藤芳夫君） 分かりました。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

ほかにございますか。

[発言する者なし]

○委員長（内藤久歳君） ないようですので、委員の質疑を終了します。

傍聴議員、何かございますか。

[発言する者なし]

○委員長（内藤久歳君） 傍聴議員もないようですので、質疑を終了します。

以上で、学力向上支援スタッフ及びスクール・サポート・スタッフの配置状況についてを終わります。

次に、委員より学校教育課関係でお聞きしたいことがありましたら、お願いいたします。
赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） この際ちょっと聞いておきたいんだけど、修学旅行の件なんだけれども、今、中学校は結構、みんな廃止というか、なっているんだけど、小学校のほうの状況は、今現在、どのような状況なんですかね。

○委員長（内藤久歳君） 興石課長。

○学校教育課長（興石 信君） 9月15日段階で、一度調査をかけて把握をしておりますので、その状況についてお伝えしますが、小学校11校は全て2学期に予定をしておりますが、現在のところ、中止となっている学校はありません。ただし、泊数につきましては、11校が当初2泊3日で予定しておりましたが、9月15日時点では泊数を減らしまして、1泊2日の修学旅行を予定しているところが7校あります。2泊3日のが4校という形になります。

あと、方面につきましては、いずれも東京方面を外しまして、鎌倉ですね、あと静岡方面に変更しまして、今のところ、実施の方向で進めているというところであります。

以上です。

○委員長（内藤久歳君） よろしいですか。

ほかにございますか。

[発言する者なし]

○委員長（内藤久歳君） なければ、事務局より、その他何かありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○委員長（内藤久歳君） なければ、以上でその他を終了します。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして総務教育常任委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

閉会 午前 11 時 31 分